

# Keyword：クレイジージャーニー

今月は、個人的にちょっと面白いと思うTV番組をひとつご紹介いたします。ご存知の方も多いと思いますが、TBSテレビで水曜日の『テッペン』枠で放映されている「**クレイジージャーニー**」です。松本人志さん、設楽統さん、小池栄子さんMCをつとめ、毎回、写真家やジャーナリスト、冒険家など、さまざまな職業の人物が登場し、普通のバラエティー番組では取り上げられないマニアックな題材を中心に展開される、まさにクレイジーな番組。紙面では、番組に何度も登場している代表的な方をご紹介します。ご興味がある方は、是非ご覧あれ！



## ●アフリカを愛する裸の美人フォトグラファー「ヨシダナギ」

1986年、東京・江戸川区で生まれ、5歳の頃にテレビで見たマサイ族の姿に心を射抜かれた。10歳の頃、自分はアフリカ人にはなれないと知る。当時のお小遣いは1週間に110円、自然界の生き物に興味を持ち、ダンゴムシ、アリ、ミミズを生きたまま食べる好奇心旺盛な女の子だった。19歳の時にメイクの専門学校に通いヤマンバギャルに。その後、絵の才能が認められイラストレーターとして生計を立てる。23歳の時に初めてエチオピア・ムルシ族などの少数民族を訪問、26歳の時、カメルーン・コマ族の村へ行った際、初めて部族と同じ格好になる、脱いだら家族になれた。その後も定期的にアフリカ各国へ、通算16カ国、200以上の部族を撮影。その後、裸の美人写真家として話題に。

## ●世界のカウンターカルチャーを追い続ける男「ケロッピー前田」

カウンターカルチャーとは、メジャーなカルチャーに対抗する形で若者達が作り出した新しいカルチャーの総称。ケロッピー前田は、カウンターカルチャーのイベント取材で世界各地を飛び回る。身体改造の一種、ボディサスペンション（体にフックを刺して吊るす行為）の世界最大のイベントがノルウェーで年に1度開催されている。ノルウェーでは、ボディサスペンションのようなパフォーマンスは普通に行われているらしい。身体改造では、ドイツ人の「ロルフ」が超有名。身体の至るところにシリコンやテフロンを埋め込んで突起を作ったり、眼球の白目にタトゥーを施して全体を黒くしたりと、53歳の時に最多身体改造男性としてギネスにも登録されるほど。こんな凄いのでちで、電話会社のエンジニアをしているから驚き。来日したこともある人物。



他にも危険地帯で潜入取材する「丸山ゴンザレス」、アリマスター「島田拓」、ハリウッドセレブ御用達の日本人ネイチャーリスト「プリトニー・トーキー」等々、凄い人達が登場します。放映した映像は、DVDとして第7弾まで販売されています。販売枚数が既に20万枚を超えており、この時代、DVDの販売数が20万枚を超えることは、かなり凄いことらしい。



## ●アドベンチャーレースに挑む「田中正人」

総距離600kmを4人1組で進みゴールを目指すというクレイジーなレース。スタートからゴールまで数日を要し、その途中には過酷な状況が待ち受けている。地図を片手に地形を読み、道なき道をほぼ睡眠なしに進む。手付かずのジャングルや氷河をトレッキング、荒れ狂う海をカヤックで進み、山道をマウンテンバイクで走行、時には超狭い洞窟内を這いつくばって進むなど、とにかく普通では考えられない過酷なレース。これを見ると、トライアスロンは幼稚なレースに見えてしまう。過去には、各国から参加した50チームのうち、49チームがリタイアするという考えられない過酷な展開も。そんなアドベンチャーレースで、完走37回を誇っているのが田中正人（1967年・埼玉県生まれ）。レースの終盤では、疲労と寝不足から誰しも幻覚を見るという。



## ●奇界遺産を取るフォトグラファー「佐藤健寿」

『奇界遺産』『世界不思議地図』『THE ISLAND 軍艦島』『世界の廃墟』でおなじみの写真家。これまで、世界100カ国以上を訪れ、各地の奇妙な場所や人物、辺境・秘境の奇祭や奇習、さらに宇宙ロケット基地から巨大廃墟までを撮影。時にはドローンを使って上空からの撮影も行う。番組で放映されたテキサス州立大学サンマルコス校法医人類学センターの約10万㎡の敷地内に設置されている「死体農場」は圧巻だった。常時70体もの死体が敷地内に野ざらしの状態で放置されている。こうすることによって、人間が自然に腐敗し分解されていく過程を明らかにすることで、殺人事件などにおける正確な死亡時期の割り出しや計算方法を導き出すという目的がある。死体の年齢は21週の胎児から102歳までと幅広い。全て本人や家族の意志によって献体されたもの。



## ●爬虫類ハンター「加藤英明」

緊急 SOS! 池の水ぜんぶ抜く大作戦（テレビ東京）でも人気者の静岡大学教育学部講師で農学博士。世界各地のジャングルで、激レア種の爬虫類を素手で捕獲する反射神経の良さ、学術的な知識の深さには驚かされる。『第44回放送文化基金賞』テレビエンターテインメント番組部門最優秀賞を受賞したことで話題に。

2019 vol.081

2

# Legend

対談企画⑮

前編

## 照明の仕事は面白い！



株式会社アートブレイカンパニー 取締役会長  
森田 昭彦



ゼネラルプロデューサー  
檜垣 俊幸

**檜垣** 森田さんは、照明だけじゃなく音響も手がけているんですね。  
**森田** そうです。スペースワールドの記者発表をやる時に突然、檜垣さんからダンサーも入って踊ると言われて、会場の演出照明をセッティングするのが大変だったのを覚えてますよ。社員食堂のような会場で、ショーをやるような環境じゃないのに「無茶振りするなあ」と（笑）。

**檜垣** それでも何とかするのが森田さんだった。ABC（アートブレイカンパニー）も長くやってますね。

**森田** ABCで43年。一番最初に檜垣さんと付き合い始めた時は、前の会社でした。今は業界で大手になってますよ（笑）。そこを辞めて仕事が来始めて今に至ってる。

**檜垣** だいたい俺は舞台照明のことをよく知らないからね。映画のことしか知らない。映画の照明には青だの黄色だのはないからね。舞台をプロデュースしても打ち合わせしたことない。「じゃあ、頼むな」と言って、あとは勝手にやってくれればいいやって（笑）。

**森田** 檜垣さんは、やりたいことはハッキリしていましたからね（笑）。

**檜垣** スペースワールドは面白かったね。言い方を変えれば贅沢だった。好きなことをやってきたしね。博覧会をやった、その後テーマパークをやったわけだから、ずっと繋がったよ。博覧会とテーマパークだけで100億近くやってるんじゃないかな？

**森田** 私がこの業界に入った時はイベントやファッションショーの照明は、電源の確保が重要になるので「電気屋の仕事」と言われて、見下されるような世界でしたよね。そのおかげで私の仕事が増えたんですよ。私はファッションショーも面白くてしょうがなかった。だから他所でちゃんとやってくれないと、人の紹介で仕事がウチに来るんですよ。そういう仕事がものすごく多かったですね。

**檜垣** 当時は照明のABCと言ったら有名だったよ。俺が言っただけから（笑）。

**森田** そのおかげで、今があるのかな（笑）。

**檜垣** その舞台やイベントに、俺は映像を持ち込んだんだよ。映像と音響と照明という、今のハシリだね。



モデル：Ania M / Height:170cm B:78 W:60 H:89  
事務所：ARTRICK ENTERTAINMENT（アートリック）http://artrick.com

## adtainとは、adprojectとentertainが融合した「おもてなし」のトピックス誌



**森田** 照明の世界も変わりましたよ。今は、ほとんどがLEDで全部コンピューター制御です。もうついていけないです（笑）。会社について電話がかかってきてもシステムの問い合わせに答えることができないから怖くて取れない（笑）。本当はLEDよりもタングステンのライトが一番綺麗だし、ロウソクや焚き火の炎には、どんな照明もかなわない。

**檜垣** 世間の人は照明って電灯を当てりゃいいくらいにしか思ってないだろうね。森田さんが照明に興味を持ったのはどうして？

**森田** ホテルで外国人向けのショーをやる会社のアルバイトをやっていたんですよ。照明が専門ではなかったのですが、全国ツアーを手伝えと言われて劇場というものを勉強して、面白い世界だなと思っているうちにあちこちからアルバイトのチャンスとやってくれないと、人の紹介で仕事がウチに来るんですよ。そういう仕事がものすごく多かったですね。

**檜垣** 照明って重いケーブルを持ちたりして結構な肉体労働だと思うけど、若い女の子も多いよね。

**森田** 今は女の子の方が多んじゃないかな。いつだったか、ホテルの現場でウチの女性社員が20メートルぐらいの電源ケーブルを担いで持

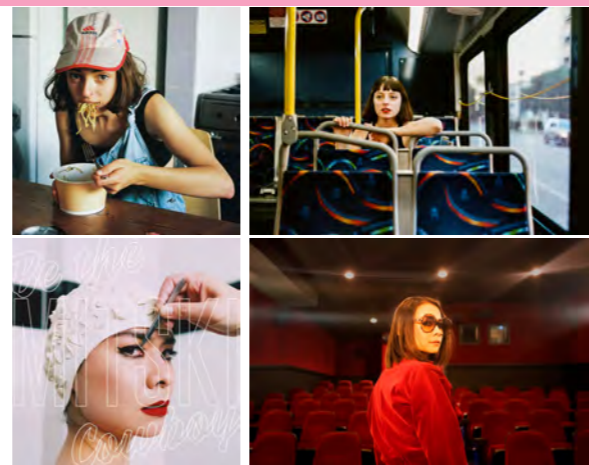
っていたら、「女の子にそんなもの持たせちゃダメだろう」というから、「じゃ、手伝え」と言ったら重くて持ち上がらない（笑）。彼女は楽々と持ち上げてスタスタ歩いてるんですよ。女性でも力のある人はいるんですよ、照明の世界は（笑）。

**檜垣** 映画の世界では、照明部が一番強かった。明かりを当てないと撮影ができないから威張ってた。デカイ照明を当てて、サンマが焼けるくらい熱かった（笑）。

**森田** 今はコンサートなどでステージから客席にライトを当てるバックライトの演出は当たり前になってるけど、昔は「客を冒瀟する」というで業界ではバカにされていたね。だけど私は好きで、しょっちゅうやってました（笑）。某有名芸能人のリサイタルがあって、最後の最後に大きな照明を後ろにいっぱい並べてドカーンと点けたんですよ。そうしたら、舞台の上の人が、まるで雲の上を歩いているみたいで素晴らしいというファンからの感想をもらいました。業界ではボロクソに言われてましたけど（笑）。それから「それがやりたい」という要望があって仕事 came たりして、業界もバックライトを見直すようになったんですよ。（次号に続く）

# T O M O K O O ' S R E C O M M E N D

もう2月。夏フェスも第一弾ラインナップが発表されましたね。フジロックのラインナップの充実度に久しぶりに心が弾きました。まずヘッドライナー・クラスの注目はやっぱりキュアーだけど、トム・ヨークのソロやデスクャブやジェイムス・ブレイクやケイクも絶対外せない。4年前にご紹介したトロイ・モウも出ます。その中でも気になる女性アーティストを2人をご紹介します。まずはオーストラリア・パースを拠点に活動する25歳のシンガーソングライター、「Stella Donnelly（ステラ・ドネリー）」癒される透き通った歌声とノスタルジーで優しいメロディーが秀逸。可愛らしいルックスや声からは想像しにくい怒りが多めの歌詞とこのギャップが良い。ジャケットのセンスがこれもまた良い♡飾りたい♡次は日本生まれ、ニューヨーク在住のミツキ・ミヤワキのソロ・プロジェクト「Mitski（ミツキ）」昨年8月にリリースした『ビー・ザ・カウボーイ』はPitchforkをはじめとする様々な国内外の媒体の年間ベストを総なめにした傑作。ドラマチックで表現力豊かな歌声が苗場の壮大な雰囲気とぴったり。ビョークやセント・ヴィンセントと比較されることにも納得の実力者。どんなステージが見られるか今から楽しみですよ◎



ご意見・ご感想は adtain@adproject.co.jp まで メールでお寄せください。  
発行：株式会社エディープロジェクト 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-27-4  
www.adproject.co.jp

↑上のスペースを外の方にも開放致します。是非、寄稿をお願い致します。  
詳しくは、こちらまで→<http://adtain.tokyo/contribution/>

adproject 公式 facebook を check  
adproject がお届けするエンターテインメント情報を随時UP!!

皆様の いいね！ をお待ちしております。

facebook adproject



もしくは、<https://www.facebook.com/adproject.japan>





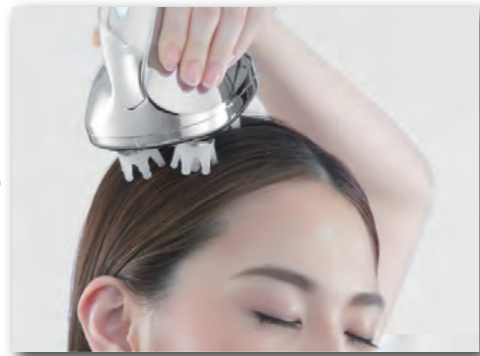
PRODUCER：カセット 葉子

■Title：年を重ねると頭が硬い？

「年を重ねただけでは、人は老いない。理想を捨てた時に初めて人は老いるのです。」という名言があるように、わたしもそう思っていました。が!!…やっぱり体や顔は、努力しないと維持は出来ないということに、ここ数年思い知らされております。特に鏡を見ることが年々恐怖にすら感じます…。顔全体が重力に従順に従いはじめ、パッと見はわからないところで、白髪たちが集団行動を取り始めています。痩せにくい、体の不調が増えたなど挙げ始めたらキリがない…。そんな不安を隠しつつ毎日過ごしているわたしの前に「頭皮が1mm上がれば、顔が1cm リフトアップしますよ!バスタップ3cm!ヒップアップ5cm!」と頭皮マッサージを勧める某有名美容機器メーカーのお姉さん。要は勧誘ですね。そう知りつつも素直にマッサージを受けてしまいました。でも、かなり気持ちいい!痛みもちい~!しかも、頭半分をマッサージしてもらった後、顔の左側と右側を比べると確実に目の位置が違っていました。お姉さんが他の人にマッサージをしている間も自分でマッサージ器を独り占め。もう手放せないアイテムとなってしまう、ちょうど臨時収入があったため、自分に言い訳をして買ってしまいました(笑)。毎晩寝る直前の真っ暗闇でこのような状態です。↓たしかに、筋力トレーニングをしても頭部周りの筋肉は放置されたままなのでたるといばかりですよ…。購入してから、そんな頭皮マッサージの効果について調べました。買ったことを肯定するために!「頭皮が硬いということは、干からびた土壌と一緒にです」と書かれていました…(怖)効果については、読めばそんなことは知ってるし~と思うのですが、なかなか意識することはなかったように思います。これからも歳に抗うためにこのアイテムと共に過ごしていきたいと思います。

頭皮マッサージの効果

- ◇抜け毛防止&育毛効果  
(血液循環が良くなるからかマッサージ後は髪がフワツとします)
  - ◇白髪の予防(白髪が黒髪になることもあるらしいので超期待!)
  - ◇顔のシワ予防(半信半疑ではありますが…)
  - ◇顔のむくみ解消&リフトアップ(実証済。目の位置が変わったり目がハッキリします)
  - ◇首肩の凝り解消(マッサージ後は楽になります)
- その他、眼精疲労、頭痛、自律神経を整える等々。私には必要なことばかりでした~。



# Project 1.



少数精鋭?人材難?果たして!



EXECUTIVE PRODUCER：松延 智明

みなさまこんにちは。第3プロジェクトの記事も担当しました松延です。ただいま、福岡県の小倉に移動中です。現在地は名古屋と京都の中間地点…ここで「あれ?」と思われた方、通ですね!別に通とは関係ないか。通常、小倉であれば福岡空港か北九州空港を使われますよね。しかし、わたしは新幹線派。なぜなら、このように仕事ができるからです!というのは表向きで理由で、単純に飛行機が怖いのです。高いところは恐怖、怖い映画はできれば見たくない、でもお化け屋敷はまったく怖くなく、ホラー小説は読むというメンタルです。もう一つ、昔、博多でプレゼンがあった際に航空機を使ったとき、荷物を預けたら1便あとに乗っていたという経験をしています。その荷物には、出力した大量のプレゼン資料が入っており、降り立った空港で1人大パニックです。泣く泣く、コンビニで手持ちしていた自分のメモ書きのあるプレゼン資料をコピーして首をつなぎました。みなさん、わたしのマズイ字のメモを見て笑ってくださったので、助かりました…。この時、必要なものは預けるなどという教訓と、飛行機はなるべく使わないという言い訳を得たわけです。しかし!海外に行くとなると、そんなことは言っていられません。ある後輩は「船で行くんですか?」と悪意のある笑顔をわたしに向けてくる始末。あ、お客様から電話がきたので、一旦、デッキに。これも新幹線移動の利点ですね。「まもなく、新大阪です。今日も新幹線を御利用いただきまして…」のアナウンスで文字が埋まったので、これまで(笑)。



## 降雪地域

PRESIDENT：檜垣 俊吾

いつもこの時期になると、なぜか撮影が集中してきます。2月の月の半分以上は撮影業務。しかも9割以上が屋外のロケという悲しさ。なにも1年の中で一番寒い時期に撮らなくてもという撮影も多数ありますが…これは別。敢えて極寒の地での撮影。降雪エリアで活躍するロードサービスカーの撮影です。降雪地域ではあるのだと思いますが、もし車を運転しているときに、大雪などの影響から雪道でスタックしてしまったら、運転時のトラブルということでJAFや自動車保険のロードサービスなどが思い浮かぶと思いますが、雪道でスタックした場合には、ほとんどの自動車保険はロードサービスを使用できないってご存知でした?なぜロードサービスが使えないのか?というところ…雪道でのスタックは「衝突・接触の事故」や「車の故障」、「キー閉じこみやバッテリー上がり」などの走行障害に該当しないからだそう。また「ほとんどの」保険会社と言いましたが、唯一、事故対応 NO.1 のソニー損保では条件が全て揃った場合のみ、自力走行可能な場所へ引き出しを実施しているようで、冬タイヤをしっかりと装着し、それでもスタックして除雪したけどダメだった場合には、一度だけ救助するらしいですが… JAFさんはそんなややこしい事言いません。雪道のスタックであろうと、脱輪であろうと関係ありません。依頼されたらレスキューします!という個人的な思いを込めて極寒の撮影を行ってまいりました。人も機材も故障せず、無事撮影を終了することが出来ました。でもこんな吹雪で一人でスタックしたらと思うと…ゾッとしますね。



# Project 3.

PRODUCER：松延 智明

■Event：プライバシーマーク5度目の更新

■Date：2019年1月



当社は、一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)からプライバシーマークの認証を受けています。ご存じでしたでしょうか。わたしたちの名刺の右上には、プライバシーマーク付と事業者が使用できるマークが印刷されています。adtainでご紹介するためにスマホでマークを撮影したところ…なんと!古い名刺を使用していることが発覚。すみません…。マークの下の番号は、8桁の数字が当社の登録番号、かつこの中は更新回数です。その更新回数が古いものままだ(泣)。そうそう、年間何百枚も名刺交換をしますが2015年に当社が引越した際、ものすごい数の名刺を会社から渡され、それをそのまま使っていたということなんですね…。ちなみに、プライバシーマークは、2年に1度、必ず更新審査を受ける必要があります。2019年1月に審査通過の知らせがJIPDECからあり、今期は(06)なので、10年以上、プライバシーマークの認証を受けていることになるんです。更新審査は、JIPDECの審査員2名が来社され、当社の作成した個人情報保護マネジメントシステム(PMS)や社内での運用状況を丸1日かけて、厳しくチェックされます。当社のPMSは一般財団法人日本規格協会JISQ15001:2017年版対応に対応したA4サイズの用紙で百数十ページに及ぶマニュアルです。プライバシーマークの推進チームを作って、1からマニュアルを作成するのに2年くらいかかった記憶があります(3年だったかもしれませんが)。それから更新を重ね、努力を積み上げてきたつもりですが…果たして、みなさまのお役に立てておりますでしょうか。これまでには紆余曲折、ご迷惑をおかけしたこともあります。法改正が話題になると「もう、やめてくれ~」と体から空気ももれたこともあります。さらに!当社は、事業拡大で新たに派遣業を行います(宣伝)。たくさんのお客さまの個人情報を扱うこととなります。さらなる個人情報の安全、保全、そして健全。社会からの要請は増えることになりましたが、社を挙げて取り組んでまいりますので、どうぞ、安心してお仕事をお任せください。たくさんのお声かけ、お待ちしております!



## 富士山

第4プロジェクト 太田 里実

例年、制作を担当させていただいて、キャンプイベントの会場ロケハンへ行ってきました。イベント開催時期になると、富士山は曇りに覆われてしまうことが多いのですが、この日は綺麗に晴れたり、山容をみせてくれました。イベント当日も晴天となればいいのですが、…イベントの成功と好天を期待しつつ、制作作業を進めております。晴れ間に富士山が観えると最高のロケーションですので、是非皆様も富士山を親に訪れてみてはいかがでしょうか。



# Project 2.

弓狩 章裕

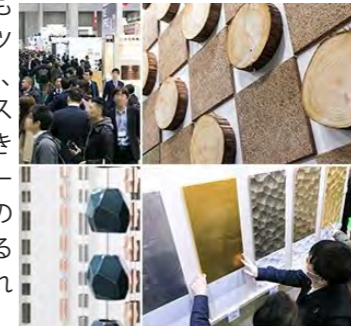
■Event：建築・建材展 2019

■Date：2019年3月5日(火)~8日(金)

■Place：東京ビッグサイト



昨年に引き続き、3月5日(火)~3月8日(金)の間で開催される、「建築・建材展 2019」のオリンパスメモリーワークス様のブースを担当させていただきます。「建築・建材展 2019」は、住宅・店舗・ビル用の各種建材をはじめ、設備機器やソフトウェア、工法、関連サービスなどを幅広く紹介する国内有数の建築総合展です。集中展示ゾーンとして、普及が進む木造・木質建築に関わる製品・技術を紹介する「木造・木質建築ゾーン」、現場の生産性・安全性・快適性を高める製品・サービスを紹介する「工事現場ゾーン」、防汚、抗菌などの機能を発揮する光触媒製品を展示する「光触媒ゾーン」などが設けられています。また、特別企画として「グッドデザイン賞」を受賞した建築・建材関連商品などを紹介する「GOOD DESIGN Biz ZONE」も開催されます。今年で25回目の開催で来場者数も4日間で約10万人となっており、多くの建設業関係者が来場し、新製品・サービス、業界動向などの情報収集、商談等を行う場になっています。オリンパスメモリーワークス様のブースでは、工事現場で確実に役立つ写真撮影管理ソリューション「TAPSOL(タプソル)」をご紹介させていただきます。従来の工事現場でとても苦勞する工事写真。紙の図面を広げて撮影ポイントを考えたり、黒板の持ち歩きや記入だったり、工事写真の撮り忘れだったり、夜遅くまで台帳作成に時間を費やしたり…などなど、大変なことが盛りだくさんですが、それを解決してくれるのが、「TAPSOL」。工事写真に関連する作業を飛躍的に改善してくれます。「TAPSOL」は事前準備から撮影、台帳作成までを、一気通貫してできるので、工数を削減しつつ、業務の効率化や品質向上につなげられるのがTAPSOLの特徴です。話を聞くだけだと、難しく感じるかもしれませんが、今回はブースコンテンツとして現場でのTAPSOL活用シーンを、MCと現場監督モデルによる掛け合いのステージで分かりやすくご説明させていただきます。その他にも、フランチサイズショーやLEDの総合展なども毎年やっているのので、建築関係の分野のみならず楽しめる展示会になっていますので、機会があれば足を運んでみては如何でしょうか。



**建築・建材展**

NIKKEI MESSE 東京ビッグサイト  
主催:日本経済新聞社

2019年3月5日(火)~8日(金)  
10:00-17:00 最終日は16:30まで

# Project 4.

PRODUCER：岩下 信而

■Theme：真夜中の地上波

■Date：2019年2月

■Place：東京



エンタメ野郎(オイラのこったい)も冬は寒い。3月封切りのクリント・イーストウッドの新作「運び屋」まで劇場通いは一休みして、テレビをサッピング。「スーツ」「グッドワイフ」そして「24」…地上波が米国テレビドラマのリメイクを乱発している模様。オリジナルははくも楽しんだ名作ばかり。だけど、手軽にCATV、VODやTSUTAYA等で古今東西のホンモノのコンテンツが楽しめる現在、「東京ラブストーリー」「常盤貴子」等のトラップを仕掛けて(常盤貴子には一瞬引っかりそうになったけど)わざわざ今更日本版を制作する意図が理解できない。通販と韓流と時代劇の再放送をあてがわれて満足している視聴者など最早「マボロシ~」by I K K Oなのである。ジャック・パウワーのファンは、既に「サバイバー」で毎週苦悩しているキーファー・サザーランド大統領を応援しているのです。これで電波オークションが導入され、既得権がなくなったら地上波は大丈夫か。おっと言い過ぎた、すまなかったと思う。

文頭から毒を吐いたので、拾いモノ深夜ドラマを2本ご紹介。まずは「新しい王様」。香川照之と藤原竜也。テレビタレントにはできない舞台人ならではの大きな芝居を、本当に楽しそうに演じている。「グレート・ギャツビー」のような展開かと思っていたら、「TOB」「インサイダー」「パルピ」「ギャラのみ」「パバ活」「イメクラ」「並び代行」…AbemaPrime さながらの現代の大ネタ小ネタがテンコ盛り、その上「フェイク・ニュース」という地上波にとって触れられない自虐的なテーマまで。(インターネットと共同制作とはいえ)よくぞこんなシニカルで痛快な番組を作ったものだ。天晴。

そしてNHKの「ソンビが来たから人生見つめ直した件」。主演の石橋菜津美/土村芳/瀧内公美が、それぞれ痛いほどクール/KY/一生懸命なキャラを好演、それを岩松了がしっかりと(芸風はゆるいけど)固めている社会派コメディ。こんなチャームキングな3人の女優と一度に出会えてすごくお得な気分、これだからエンタメ探しはやめられない、では次号、Ciao!

